

園長メッセージ

先日の岩城敏之先生の講演はいかがでしたか。
「9才まではテレビ・ビデオ・ゲーム（コンピュータゲーム）を控えて、実体験の経験を多くさせてあげよう」このお話は毎年のようにおっしゃっておられます。また、百マス計算などでお馴染みの陰山英男先生は、「早寝、早起き、朝ごはん」を提唱しておられます。そして、乳児期の子どもの発達と親のかかわりについて、医師の原田正文先生らのレポートで、以下のことが言われています。



(以下、原文のまま)

- ① 赤ちゃん体操や「うつ伏せにする」とか「手にもものを持たす」などのかかわりは子どもの発達に良い（4ヶ月児健診）
- ② 天気の良い日には「よく外で」遊ばせている母親の子どもは発達が良い
- ③ 歩行器の使用は子どもの発達に悪い
- ④ 子どもと一緒に遊ぶ友だちが多いほど、子どもの発達が良い
- ⑤ 母親の近所の話し相手が多いほど、子どもの発達が良い
- ⑥ 食事のとき、手づかみでも自分で食べられるようにしている母親の子どもは発達が良い（10ヶ月児健診）
- ⑦ 食事のとき「特に気をつけていること」として「食べる楽しみ」をあげた母親の子どもは発達が良い
- ⑧ 体罰は子どもの発達に悪い
- ⑨ 子どもによく話しかける母親の子どもは発達が良い
- ⑩ 母親のかかわる時間やかかわりの度合いが多いほど、子どもの発達は良い
- ⑪ 子どもの欲求が理解できる母親の子どもは発達が良い
- ⑫ 母親の育児不安が少ないほど、子どもは発達が良い
- ⑬ 母親の「イライラ」や「疲れ」などの精神的ストレスは子どもの発達に悪い
- ⑭ 父親の育児への参加・協力は子どもの発達に良い
- ⑮ 育児の手本がある母親の子どもは発達が良い
- ⑯ 出産以前の子どもの接触経験や育児経験がある母親の子どもは発達が良い

なお、⑯でいう「子どもとの接触経験と育児経験がある」とは、「お母さんは子どもができるまでに、他の子どもを抱いたり遊んだりしたことがありますか」および「お母さんは子どもができるまでに、他の子どもに食べさせたりおむつをかえたりしたことがありますか」という質問に「よくあった」と答えた母親のことである。